

【平成31年2月号④】



木の芽も膨らみ、春かし！

車輪梅

《重点目標》『品格を高め、目標に向かってねばり強く取り組もう』

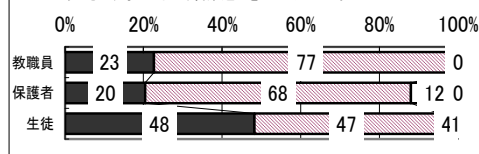
昨年師走の忙しい中、多くの保護者の皆さまには学校評価のアンケートにご協力いただき、本当に感謝申し上げます。今回は、生活面・道徳面からの結果を報告します。徳育編（心の教育と生徒指導の充実）

4 よいあいさつ、身だしなみ、言葉遣いを心がけている。

昨年度との比較では、教職員 3. 3→3. 2、保護者 3. 0→3. 1、生徒 3. 3→3. 4 と、若干下がった結果である。地域の方からは「鹿島中生徒のあいさつはこの地域で一番すばらしい。」という声が、寄せられたところである。教職員の評価値が下がった理由は重点目標「品格」の高まりには達していないという視点があるからだと考えられる。生徒と保護者の評価値は上がっており、特に生徒会が中心となって主体的に進めている「3つの習慣」（「あいさつをする習慣」、「下足をきれいに、きちんと並べる習慣」、「返事を、相手に分かるようにする習慣」）において、意識してよく取り組めたと評価した結果である。

（今後の取組）→言葉遣いも含め、基本的な生活習慣は、生きていく上での重要な項目である。社会人として身に付けておくべき内容でもあり、生徒の気持ちに根づいた「品格の向上」を目指して継続して取り組んでいく。

4 よいあいさつ、身だしなみ、言葉遣いを心がけている。

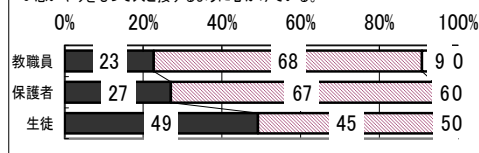


5 思いやりをもって人と接するように心がけている。

保護者は1ポイント増加したものの、教職員・生徒ともに昨年と同じ結果である。保護者は学校の指導をおおむね評価している。A評価に焦点を当てると、教職員・保護者のA評価の割合が生徒の約1/2と低いのは、程度の差はあれ、軽はずみな言動で相手の心を傷つける場面を目にしたり、指導した実態があったことを踏まえたためと考えられる。

（今後の取組）→道徳の授業に加え、学級を始めとした学校生活の基盤において人間的な温かい人間関係を構築するとともに、学年の実態に応じて集会などの機会をとらえて指導していく。

5 思いやりをもって人と接するように心がけている。

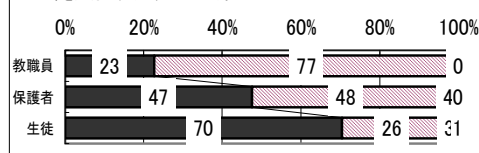


6 生命を大切にするようにしている。

命を尊重する態度を育てることは、いじめの未然防止や、人権に対する意識を高め、相手の人権を尊重する態度の育成に深くかかわってくる。教職員、保護者、生徒となるにつれ、評価の平均値が上がった結果である。教職員、保護者、生徒となるにつれ、A評価の割合が23%、47%、70%と高い値となっている。教職員が学校の指導場面だけでは、実態把握するには情報不足であるという背景が、A評価の割合が低く出ている結果と思われる。

（今後の取組）→命にかかわり、人権作文を書いたりしながら、人権について深く考える機会を設ける。命の大切さを実感する場を多くもてるように、道徳の授業等で継続して指導していく。

6 生命を大切にするようにしている。

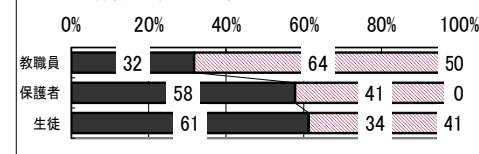


7 いじめは許さないようにしている。

昨年度との比較では、教職員 3. 1→3. 3、保護者 3. 5→3. 6、生徒 3. 5→3. 6 と、全ての評価の平均値が上がった結果である。いじめによる自殺という痛ましい事故が報道されている。このような形で尊い命が失われることがあってはならない。「いじめやめよう5つのプロジェクト」（「思いやりの心をもって行動しよう」、「みんな仲良く行動しよう」、「相手の気持ちを考えよう」、「悩んでいる人がいたら助けよう」、「トラブルを見過ごさず、自信をもって正しいこと言おう」）について推進してきた。また、生徒には毎月、保護者には隔月でいじめアンケートを実施し、いじめが疑われる回答に関しては、早期に教育相談を行い、早期発見・早期解決に努め、迅速かついじめを見逃さない指導を徹底している。

（今後の取組）→教職員のアンテナを高くし、早期発見・対応・解決を図ることができるようにする。また、生徒会のいじめ防止に向けた取組を支援し、生徒からの主体的な取組を積極的に推進していく。

7 いじめは許さないようにしている。



8 楽しく学校生活を送っている。

新たな不登校生徒、不登校傾向生徒を生み出さない上で大変重要である。評価平均値では、教職員は下がったものの、保護者、生徒については0. 1ポイント増加した結果である。回答状況からは約6割の生徒がA評価であり、B評価も加えると95%の生徒に上る結果である。また、本校では、新たな不登校生徒の出現は見られていない。逆に、これまで不登校であった生徒が2学期には出席すべき日数の過半数を出席し、大きな改善を見せている生徒もいる。休みがちな生徒、支援を要する生徒についても、担任や学年、養護教諭の働きかけによって、教室には行けなくても保健室登校を継続している。そうした生徒においては、人間関係づくりが苦手であったりなどの傾向がある。

（今後の取組）→担任を中心に学年主任、養護教諭のサポート体制を継続しながら、互いを認め、賞賛しあえる学級風土・楽しく学校生活を送られるようにする。また、家庭と学校が連携し、生徒が楽しいと思える学校、保護者が安心して通学させられる学校をめざした学級経営、学校経営を継続していく。

8 楽しく学校生活を送っている。

